

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
「個別の指導計画」の活用促進	個々の実態とニーズに即し、個の良さを生かす指導・支援となっているか「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに確認し共有を深めて指導にあたる。	児童生徒の実態を考慮しクラスやグループで学習活動を実施している。グループ学習は、今年度から本格的に始まったため、細かな実態把握の共有に「個別の指導計画」を活用した。授業時数や時間割について、個人面談や保護者懇談会、「学習だより」などで保護者の理解を深めていく。	B
道徳教育、自尊感情の育成	①自尊心や自己有用感、仲間意識の向上を目指し、学校生活全体を通じて、できる体験と認め合う体験を重視した指導・支援の充実に向けた取組を推進する。 ②左近山地域や居住地域とふれあう活動を大切にするとともに、地域の人とのつながりや地域の社会資源を活用した学習を展開する。	①体験的な活動や生活経験に根差した実用的な活動等を設定し、児童生徒本人と他者を認め合う環境づくりに重視した取組を進めた。②諸地域と触れ合う活動を設定し、教科横断的な取組で道徳的な心情や態度等を育むことができた。年齢や学部を横断した取組も充実していきたい。	B
食育、健康の保持、身体の動き	①食に関する様々な経験をするとともに、自分の体や健康について理解を深め、主体的かつ安全に活動しようとする意識を高める。 ②教職員の「自立活動」に関する理解を深め、PT・OT・STからの指導助言をいかしながら、各児童生徒の身体や感覚の特性に応じた指導の充実を進める。	①給食週間等を通じ給食への関心を高めたり、授業で栽培した食材を触れたり給食で食したりする活動を通して食育活動の推進に努めた。 ②PT等の専門職から、児童生徒の実態把握の方法や将来を見据えた指導目標の立て方などについての指導・助言を受け、指導にいかすよう努めた。	B
自分づくり教育(キャリア教育)	①自分らしい生き方の選択・決定のため、個々の希望やニーズを踏まえ、可能性を広げる支援を行う。 ②保護者進路学習会の実施、福祉事業所動画を限定公開YouTubeに公開、地域機関での研修等、進路に関する情報を提供しより良い支援に取り組む。	①現場実習、出前授業の実施等を通じ、自分らしい生き方の選択・決定できるよう努めた。今後も児童生徒の可能性を広げられるよう取り組む。②保護者進路学習会、福祉事業所動画の限定動画サイトへの公開等発信した。取組が一時的にならないよう、より良い支援に取り組む。	B
いじめへの対応	①教職員自身の人権意識の維持・向上のために、研修等を適宜実施する。 ②児童生徒の関係性等について、教職員が常に情報共有を図り未然防止の取組を強化する。 ③児童生徒が自らの自分と他者を認めることができるような授業や指導・支援の在り方について、引き続き研究する。	①教職員の人権意識向上を図る研修を実施した。児童生徒に対する指導や関わりについて振り返る機会になった。②毎月のいじめ認知報告を教職員にも共有することができた。③児童生徒の他者意識や自己肯定感が向上するような指導・支援を工夫して行うことに努めた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①人材育成指標を活用した本校のキャリアステージ研修により、教職員が相互に育て合う職場づくりを進める。 ②「児童生徒一人ひとりを大切にしたい学び」を行うと共に、組織運営の効率化を図る。	①教育活動の充実のために不断の努力をしつつ、保護者や地域の理解を得ながら持続可能な学校に向け着実に学校の働き方改革を進めていく。②教職経験の浅い教員集団での定期的な研修や、校内研修におけるグループ討議等、互いの経験や課題を話し合う場の設定を今後も工夫していく。	B
センター的機能の取組	①関係諸機関との連携を進めるとともに小中高等学校への相談支援、研修の提供等をする。 ②副学籍校交流校へは当該児童生徒の特性や支援等についての説明を丁寧に行う。また、必要に応じて、教職員や児童生徒に対して障害理解や人権にかかわる研修等の取組を進める。	①センター的機能として、小、中学校に相談支援、研修の提供、用具の貸し出し等をした。外部機関の専門職と同行して行う訪問は、相手校にとっても有意義な訪問となった。②副学籍交流については、研究・研修、人権部や学級担任が丁寧に進め、実際の交流回数も増えてきた。	B
通学支援	①福祉車両に対するニーズを把握し、校内で共有する。特別支援教育課と連携し、安全・安心な通学支援体制を構築する。 ②スクールバス事業所及びスクールバス乗務員との連携を密にし、安全で確実な運行等についての検討を進める。	①医ケアCoや学級担任と連携してニーズの把握に努め、通学支援検討委員会において情報共有と検討を行いガイドラインに沿って諸手続きやマニュアルを作成した。②乗務員や事業所との情報共有を積極的に行った。児童生徒の乗車中の体調や乗車姿勢等について把握し改善を図った。	B
安全管理	①教職員の防災・防犯等の意識を高めるため、研修や訓練などを通して課題を分析しながら、安全な学校づくりを進める。 ②ヒヤリハット事例の分析から、教育活動でのリスクを低減する対策を講じていく。	①実技的な内容の各訓練、研修を実施したことで新たな課題の把握とその共有を図りながらスキルアップに努めた。②ヒヤリハット事例を分類・分析し改善策を検討して全職員で共有した。様々な場面でのリスクについて、教職員の意識が高まり再発防止への対策を講じることができた。	B
地域連携	①地域行事へ教職員が参加したり地域の方に学校ボランティアへの参画を呼び掛けたりする。 ②地域のサービス基盤整備を進める役割を担う自立支援協議会に学校で把握した課題を持って参加する。 ③学校運営協議会等を通して地域の方とのかかわりを深める。	①校外学習には、地域の学校教育ボランティアの協力があつた。地域で活動している団体に、クッションの製作をしていただいた。②子ども・重心・進路部会などかわりがある部会に参加した。③左近山小学校で行われた夏祭りに、3校PTA合同で学校紹介・作品展示を行った。	B
学校関係者評価	重点取組分野についての改善や修正を求める意見等はなかった。「さこんやまSKYフェスタ」や卒業式には学校運営協議会委員が参観、参列した。児童生徒の取り組みとともに教職員の支援指導の工夫や丁寧な対応について高い評価を得た。		
評価結果に対する学校の見解	感染症による制限がなくなり、地域との連携は広がりを見せている。次年度も学校運営協議会を中心とした地域の方々に学校の取組を知ってもらい教育の成果を共有できる場面を設定したい。次年度は年間授業指数の見直しを行ったので個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づいた教育活動のより一層の充実が求められる。		
中期取組目標振り返り	小学部から高等部までの教育活動の一貫性については、児童生徒数、教職員の増員に伴い校内連携の面で円滑とはいかない場面がみられた。各家庭の小学部段階からの進路に関する意識高揚の啓蒙もさらに進めることが望まれる。校内の研究授業は簡略な指導案で効率的に行うことで、経験の浅い教員のスキルアップを図るために効果があつた。ICTの活用など肢体不自由のある児童生徒への教育の専門性は積み重ねていくことで、それらの経験や知識を人材育成に生かしたい。		